

研究分野		授業科目名				科目責任者	
生化学系分野		消化器病態生化学特論 I・III				塩谷 昭子	
開講年次		共通/専攻/選択		単位数			
1,2,3,4		特論 I : 必須専攻, 特論 III : 選択		特論 I : 4 (2/年) , 特論 III : 1/年			
目的							
(1) 消化管の生理機能と消化管癌の最先端の診断と治療を理解する。 (2) 研究に不可欠な英文論文の内容を, 比較的限られた時間で把握できる能力を確立する。 (3) 英文論文に対する苦手意識を取り除き, 必要に応じて容易に読解できるようになる。							
授業到達目標							
(1) 消化管の生理機能としての病態を理解できる。 (2) 消化管癌および炎症性腸疾患の最先端の診断と治療について説明できる。 (3) 研究結果を英文論文にまとめる。							
授業計画							
回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	毎週	月	17:00-17:30	仁科 惣治 塩谷 昭子	講義	[抄読会]	英語論文抄読会
2	毎週	月	15:30-17:00	松本 啓志	講義	[症例検討会]	病棟回診・症例検討・内視鏡カンファレンス [場所:内視鏡・超音波センター]
評価方法							
【特論 I】 (1) 1年間※で, 講義は 30 時間出席し, 科目責任者から履修手帳に出席印をもらい, 提出する。 (2) 1年間※で, 論文紹介または症例発表を 2 回行い, その要約 2 編を提出する。 【特論 III】 (1) 1年間※で, 講義は 15 時間出席し, 科目責任者から履修手帳に出席印をもらい, 提出する。 (2) 1年間※で, 論文紹介または症例発表を 2 回行い, その要約 2 編を提出する。 ただし, 特論 I・II で紹介したものと異なる論文 (症例) であること。 特論 I と III の同年度での重複受講は不可とする。 ※ 1~3 年生は 2 月末まで, 4 年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。42・43 頁: 単位履修方法参照。							
課題 (レポート等) に対するフィードバック							
抄読会で論文要約について指導を行う。							
教科書							
ISBN-9784315520620, 細胞の分子生物学 (第 6 版), 中村桂子・松原謙一 (監訳), 青山聖子 他 (翻訳), ニュートンプレス, 2017							
参考書							
国内・欧米学会から発行されている月刊英文誌, 消化器病学会誌, 内視鏡学会誌, Gastroenterology, GUT, Gastrointestinal Endoscopy など							
準備学習 (予習・復習等)							
紹介論文の要約を毎回の講義前に作成し, 関連する重要な参考文献についても熟読をする。毎回の講義後も提示論文や参考文献の復習をすること。							
修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連							
課題を探究し, 仮説立脚, 検証に至るまでの科学的的方法論・思考法を知悉する。							
注意事項・メッセージ							
PubMed で研究分野の最新の英文論文を検索し, 抄読することにより最新の情報を得るように努める。							